

研究主論文抄録

論文題目

地域災害リスクマネジメントの実践手法の構築と地方行政への展開

(Implementation of Community-based Flood Risk Management and
Application to Administrative Management in Local Government)

熊本大学大学院自然科学研究科 環境共生工学 専攻 広域環境保全工学 講座

(主任指導 山田文彦 教授)

論文提出者

山 本 幸
(by Miyuki YAMAMOTO)

主論文要旨

熊本県では、景気の回復が県民の実感として捉えられない厳しい経済情勢の中、如何にして行政のコストを下げ、効果を最大限に発揮できるかを模索している。そのために県の総合計画「くまもとの夢 4 ヶ年戦略」を実現し、県民の幸福量の最大化を図る手法が必要である。政策を実行するにあたっては、問題・課題の解決が必要となり、その戦略が求められている。県政の抱える問題点・課題の解決には、行政側だけではなし得ないものが多く、行政の透明性の観点からも、県民との協働は必要不可欠である。そこで、県が政策を実行する過程において、あらゆる行政の問題・課題に対して、職員とともに県民が協働し、課題を解決する力、いわゆる「地域力」の熟成が必要である。

本研究の指向するところは、地球温暖化によると見られる気象変動、過去の災害と防災に対する対応状況を踏まえ、これからの時代にあった災害に対する防災から減災への地域行政政策と経営が必要であると考え、その概念や実践フレーム手法を提案し、実証することにある。さらに、本手法が土木分野に限らず、他の行政分野である、商工・農政・福祉・環境・交通などの行政全般にわたるリスクマネジメントへの展開を考え、問題・課題を抽出して、その展開の方向性を見出すものである。具体的には、まず地域災害リスクマネジメントの実践手法を提案し、その有効性を検証するために、ケーススタディを実施する。ケーススタディでは、各種の条件が異なる都市部の熊本市壺川校区と、山間部の山都町菅地区において現在も継続中である。この2地区における実践を通して得られた知見を基に、今後の防災におけるリスクマネジメントの重要な要素である「地域力」を高める手法と、行政への活用について提案を行った。